

シネマズライフ

2019年6月15日発行 第165号

http://p.booklog.jp/users/rion-takagi

たかぎ りおん
貴樹 諒音

【最近のこれはお見事!】

【最近のこれはまずいぞ!】

映画の風景 日本の風景

＊ 生駒山 ＊

— 奈良県から見る生駒山



『未知との遭遇』という映画があった。こんな映画だ。

アメリカ・現代。メキシコの砂漠に突然、第二次世界大戦に使われたらしい戦闘機が現れる。戦時中に失われた飛行機のような。一方、モンゴル砂漠に大型貨物船が現れる。

その頃、インディアナポリスが規模停電が起こり、多くのUFOが目撃される。

インディアナ州の町はずれの家に母親・シリアンと住むバリーは何かを察知し家の外へ、シリアンが追いかける。そこに停電の為車を走らせていてUFOを目撃し、追いかけていた電気技師のロイと出会う。空には大きなUFOが飛んでおり、混乱の中バリーはUFOにさらわれてしまふ。

それからロイは何故か不思議な《山》のイメージが頭から離れず生活もままならないようになり、やがて妻のロニーもあきれ子供を連れ家を出ていく。一方、バリーを誘拐されたシリアンも《山》のイメージが頭から離れずいた。

フランス人UFO学者のラコームの捜査隊は一連の事件から一つの「Xロディ」を発見。宇宙人とのコンタクトができると確信する。

やがて、ロイ達の《山》がある事件からワイオミング州にあるデビルスタワーである事が分かるのだが...

宇宙人とのファーストコンタクトを描いた作品でさらびやかなUFOと印象的なXロディで《宇宙》に夢を持たせる作品の一つ。

歴史の町・奈良を見下ろす生駒山はUFO目撃も多い。なだらかな山はデビルスタワーよりも発着に向いている感じもするし、一度きつちり調べてみたい気がする。

『アナと世界の終わり』

結局、ゾンビ映画だそうです。

『黒い乙女の』のはいらない。

『未知との遭遇』 1977年 アメリカ 監督 脚本：スティーヴン・スピルバーグ
出演：リチャード・ドレイファス フランソワ・トリュフォー テリー・ガー メリンダ・ティロン ケイリー・ガフィ

映画の中で宇宙人との会話で使われる有名な5音階は【ソルレソル】というフランス発祥の人口言語を参考にしているそうで物語を印象づける名曲になっています。

新しいアイテムは使うべしと思う件

中編

おそろくひと昔前だと、ここまでヒットはしなかったろう。しかし、今やSNSの時代。今の映画ファンはほんとに面白かったらSNSに書く。そんなに面白いのならと見に行き面白かったら、またSNSに書く人達が増えるからだ。

そしてもう一つ、『カメラを止めるな!』が本当に面白かったからである。

監督・脚本の上田慎一郎の脚本と演出はスピーディーでユーモアもあり、その上無名であるはずの出演者がいい演技をしている。実は監督は出演者を決めてから脚本を書いたそう、それが適材適所でドはまりしているのだ。そんな脚本を書ける監督・上田慎一郎をメジャー会社は見つけられなかった。



今・大作を監督できる人はテレビでドラマを撮って高視聴率を撮った人が多い。昔の映画会社は映画監督も社員として雇い、大監督の下でスタッフから働かせ助監督にしばらく修行させその中から大監督になる人達も多かった。

しかし、今のメジャー会社はそういう事はしない。監督になりたいた人はまず自主映画を撮りコンテストかプロデュサーに認められるか、テレビドラマを演出し認められるぐらいしかない。

もちろん、実力の世界なのだから当然なのだが、大手映画会社にとつて、安定路線として実績のある人にチャンスを与えるのもわかる。

しかし、これでは同じ傾向の映画ばかりになってもしかたないだろう。

以下次号

ウィキペディアを参考にさせていただきました。

